

REIMEI

vol.42

No.1

Kagoshima Prefectural Museum of Culture Reimeikan

鹿児島県歴史・美術センター黎明館だより「黎明」

Contents

特集

企画展

近世薩摩藩の財政と商人

館長あいさつ

Anniversary Year! 今年は〇〇周年!

多嶺嶋の大隅国編入から1200年

What day it is today? 今日は何の日?

5月1日 八十八夜

研究ノート

黎明館敷地の歴史 -明治から昭和まで-

学芸員EYES! 第9回

錦手花鳥文鷹捕猿彫刻飾壺

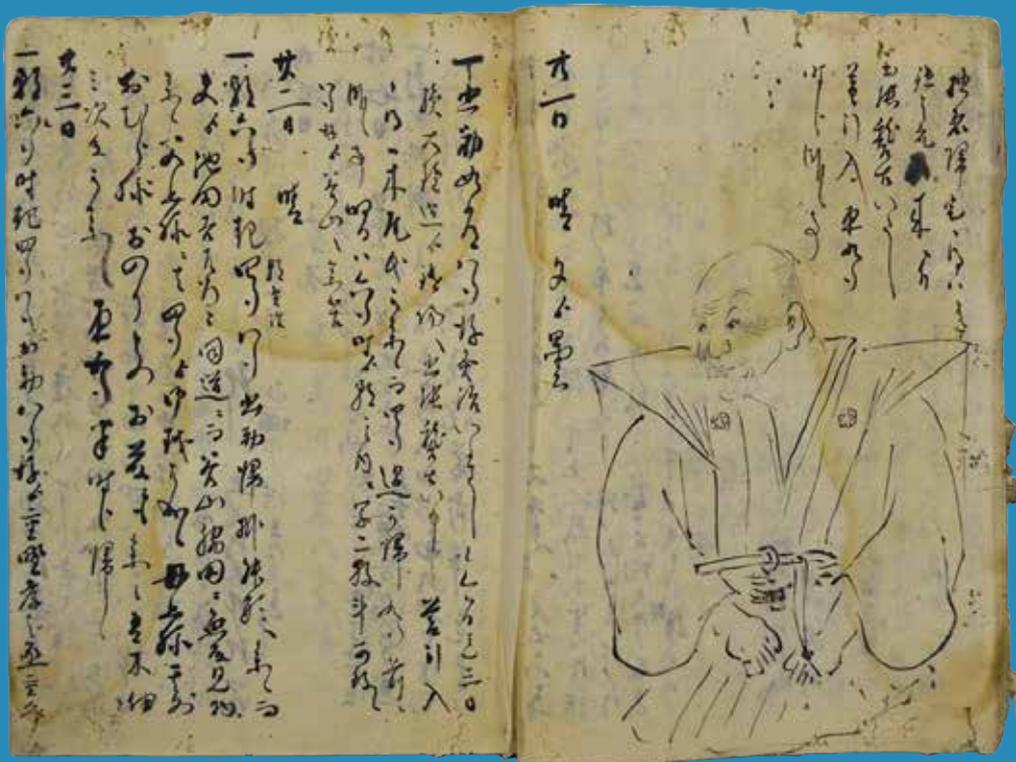
黎明館のフカボリ⑫

敷地散策のススメ 七高生久遠の像

特集

企画展

近世薩摩藩の財政と商人



近世薩摩藩の財政と商人

薩摩藩は、幕府から加賀100万石に次ぐ72万石の領地を与えられていましたが、江戸時代後期までに天文学的ともいえる500万両の負債を抱えました。この財政危機に対応したのが、**調所広郷**でした。調所の改革は、藩の改革を進めるとともに、経済に大きくかかわる商人も積極的に登用しました。

本展覧会では、薩摩藩の財政状況と調所の改革、改革に協力した商人の活動などについて紹介します。



天文学的ともいわれる

多額の負債を抱えた薩摩藩

令和6年

6.11^火 - 9.1^日 黎明館3階 企画展示室

第1章

薩摩藩の財政

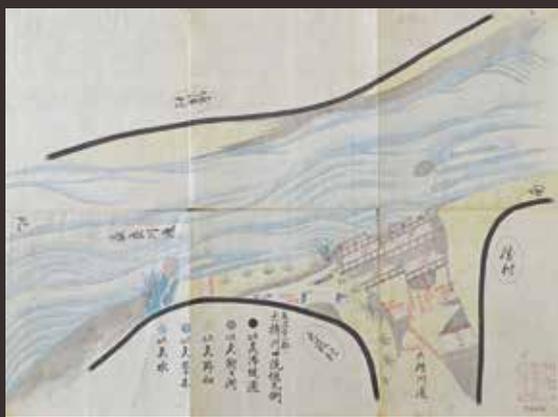
薩摩藩は「天下第二の大藩」と称されるように、全国2位の石高でしたが、土地は火山灰土壌で米の生産性は低く、そのため金山なども開発されました。その一方で、薩摩藩の参勤交代や軍役、御手伝普請(幕府から命じられた工事)は、石高に対して課されるため、大きな負担でした。

薩摩藩の代表的な御手伝普請といえ

ほうれきちすい
宝暦治水

薩摩藩は宝暦3(1753)年に幕府から現在の岐阜県を流れる木曾川などの治水工事を命じられました。

ながらがわ
長良川の水量を調節するため大樽川に建設された洗堰。薩摩藩が工事を行いました。



宝暦薩摩公御手伝普請之内大樽川洗堰図(鹿児島県立図書館蔵)



「要目集」巻一より(個人蔵・黎明館保管)

幕府からの知行目録

薩摩藩の石高はどれくらい？

3代將軍徳川家光が薩摩・大隅両国と日向国諸県郡の60万5千石余、他に琉球の12万3700石を2代藩主島津光久に認めさせた文書の内容が記されています。

関連イベント

学芸講座(展示解説講座)
「近世薩摩藩の財政と商人」

日時:6月30日(日) 13:30 ~ 15:00

講師:黎明館主任学芸専門員 新福 大健
会場:黎明館3階 講座室

事前申込制(電子申請または往復ハガキ)
応募期間:5月30日(木)~6月13日(木)

講座後に展示解説を行います。

ふるさと歴史講座

「薩摩藩主の庶民への視線」

日時:7月13日(土) 13:30 ~ 15:00

講師:『鹿児島県史料』編さん委員 尾口 義男 氏
会場:黎明館3階 講座室

事前申込制(電子申請または往復ハガキ)
応募期間:6月14日(金)~6月28日(金)

講座後に展示解説を行います。

展示解説

日時:6月30日(日)、7月13日(土)
15:10 ~ 15:50

7月27日(土)、8月10日(土)、8月31日(土)
13:30 ~ 14:10

会場:黎明館3階 企画展示室
要入館料、事前申込不要

藩と商人の活動

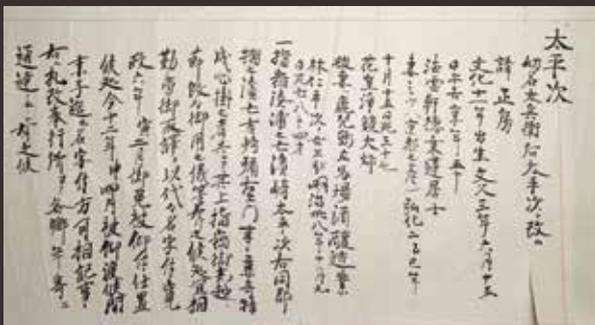
薩摩藩では、船持商人である海商が大規模な商人として知られていました。最も代表的なのは、指宿の^{ほまさきた へいじ}浜崎太平次です。また、東郷(現在の薩摩川内市東郷町)の田代家は、大坂などに紙などを販売して多大な利益を上げました。

田代家の永代日記
薩摩藩に資金を融通した記録



(個人蔵・黎明館保管)

海商 浜崎太平次の系図



浜崎家系図

浜崎太平次ってどんな人?

指宿の海商浜崎家の当主は、代々太平次を名乗り、特に8代太平次(1814-1863)の時に最も繁栄しました。藩の御用商人として、奄美や琉球から砂糖や中国産物を鹿児島に運ぶとともに、大坂などに支店を設けて販売し、その利益を調所広郷が改革を進めていた藩に献金することで、財政再建に貢献しました。

江戸時代後期の大坂商人である高木善助は、たびたび薩摩を訪れ、その様子を「薩陽往返記事」に著しました。その中には、東郷の田代家を訪問した際の記述もあります。

調所広郷の改革と商人

薩摩藩の負債は年々拡大し、19世紀前半には500万両に達したとされます。この状況下で財政改革主任に任命されたのが、調所広郷でした。調所の改革は、借金の返済を250年の分割払いとする一方、^{しよくさん こうぎょう}殖産興業で利益を上げて財政を立て直すというものでした。

薩摩藩の借財の推移 金銀換算1両=60匁



天文学的な負債 ^{その額} 500万両

社会や経済の仕組み、貨幣制度等が異なるため、江戸時代の1両を現在のお金に換算することは難しいですが、おおよそ数千億円と考えられます。

参照: 日本銀行金融研究所 貨幣博物館ホームページ



調所広郷木像

藩に協力した商人を武士に登用した記録



うままわり

財政改革に協力する商人には、馬廻格等の武士身分と扶持(給与)を与えることで報いました。

御馬廻格等商人書上(玉里島津家資料)

調所広郷ってどんな人?

調所笑左衛門広郷(1776-1848)は、鹿児島城下の下級武士の家に生まれ、8代藩主島津重豪に茶道で仕えたのち、10代藩主斉興の側近となりました。文政11(1828)年、多大な負債を抱えていた薩摩藩の財政改革主任に任命され、藩の改革を進めました。



館長あいさつ

館長 谷口 浩一

令和5年度は、黎明館が開館40周年となる記念すべき年でした。折しも鹿児島県においては、コロナ禍からの回復基調の中で、夏には「全国高等学校総合文化祭」が、秋には「燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会」が盛大に開催され、当館においても記念のシンポジウムや記念展、記念誌の発行など盛況のうちに執り行い、明るく活気に満ちた1年となりました。

この40年で館を取り巻く環境も様変わりしました。

近年、館の立地する鹿児島城跡の国史跡指定や御楼門の復元が成るとともに背後の城山や周辺の文化施設等との連携もあって、観光拠点としてのグレードが増してきております。最近では、クルージング需要の増大等も相まって、この界隈を軽装して散策する外国人に頻繁に出くわします。

また、昨年度の企画特別展(南北朝の動乱と南九州の武士たち)では、当節人気のネットコンテンツの影響をかって、

展示の目玉であった「刀剣」を目当てにした数多くの若者や女性にご来館をいただいたことが大変な驚きでした。多くの貴重なご意見やご提案もいただきました。

「ミュージアムは、ハブ(Hub)として地域社会において主体性と自立性を発揮する場として機能し、異なる立場の人々がミュージアムと一緒に活動を通じて交流するフォーラムの役割を果たそうとする。」ある識者の言葉です。

近時、様々な情報へのアクセスや往来の機会の増大の中からインパクトを得て、多様な出会いの場や交流の場の創出が期待されます。当館も、是非そういった場や存在となれるようチャンスを捉えていきたいと思っております。

当館では、常設展示に加え、時宜を捉えたテーマを設定し、18万点を超える収蔵資料や外部からの優品の中からそれに沿った素材を厳選して、鹿児島の歴史・文化の一端を臨場感をもって体感していただけるよう日々努力しております。

これからも、時代の求める多様なニーズを敏感に捉えつつ、独自性溢れる鹿児島の歴史の普遍的な価値を後世に受け継いでいく唯一無二の役割をしっかりと自覚しながら、様々な人々に強く訴求する歴史と美術の発信、展示に取り組んでまいります。そして鹿児島におけるよきフォーラムの場であり続けたいと思っております。

どうぞ、県内外の皆様にご来館いただき、それぞれの楽しみ方を見つけていただければ幸いです。心よりお待ちしております。

令和6年度の転出・転入者

転出者	職名	氏名	転出先・職名
総務課長補佐兼係長		馬場 八千代	総合政策部統計課主幹兼企画分析係長
学芸課主任学芸専門員兼企画資料係長		上村 俊洋	鹿児島市立谷山北中学校教頭
総務課総務係専門員		網代 ますみ	環境林務部森林経営課専門員
学芸課企画資料係学芸専門員		藤崎 公晴	県立伊佐農林高等学校教諭
調査史料室学芸専門員		市村 哲二	鹿児島市立松元中学校教頭

転入者	職名	氏名	元所属・職名
総務課長補佐兼係長		西尾 真二	北薩局建設部鶴島支所主幹兼総務用地係長
総務課総務係主査		竹之内 正和	総務部秘書課主査
学芸課学芸調査係主査		坂口 洋幸	鹿児島市立西紫原中学校教諭
学芸課企画資料係主査		吉峯 真太郎	奄美市立手花部小学校教諭
学芸課企画資料係主査		竹添 和寿	県立伊佐農林高等学校教諭
[館内]			
学芸課主任学芸専門員兼企画資料係長		新福 大健	学芸課主任学芸専門員兼学芸調査係長
学芸課主任学芸専門員兼学芸調査係長		崎山 健文	学芸課学芸調査係学芸専門員
調査史料室学芸専門員		吉村 晃一	学芸課企画資料係学芸専門員

令和6年度

展覧会スケジュール

企画特別展 | 歴史

没後100年

松方正義

一 郷土から総理大臣へ

松方正義(1835-1924)は、長く大蔵卿・大蔵大臣として国家の屋台骨を支えた人物で、総理大臣も2度務めました。西郷・大久保亡き後、薩摩閥の中心を担った松方の生涯に迫ります。

令和6年
9月26日(土) - 11月4日(月)



松方正義写真(個人蔵・黎明館保管)

企画展① | 歴史

近世薩摩藩の財政と商人

多額の負債を抱えた薩摩藩の財政などとともに、経済に大きく関わる商人の活動についても紹介します。

令和6年
6月11日(火) - 9月1日(日)



調所広樹像「続常止集巻十四」より(個人蔵・黎明館保管)

企画展② | 民俗

南九州の山と生きる人々

山での生業に使われた民具、山の神への畏敬と感謝を表す行事や信仰など、山と人々が育んできたつながりを紹介します。

令和6年
9月10日(火) - 12月1日(日)



ワキノコ

企画展④ | 総合

新収蔵品展

近年収蔵した資料のなかから未展示のものに光を当て、関連資料も交えて紹介します。

令和7年
3月11日(火) - 6月1日(日)



島津義弘書状 文禄4年(1595)6月5日付 幸相宛(個人蔵・黎明館保管)

新納忠之介作 木造観世音菩薩立像(部分)

企画展⑤ | 美術・工芸

風景へのまなざし 発見された鹿児島の名勝

風景に向けられたまなざしと表現の移り変わりの中で発見された鹿児島の名勝を、絵画や工芸品、鹿児島ゆかりの名所絵や図会、近代以降に描かれた風景画などをとおして紹介します。

令和6年
12月10日(火) - 3月2日(日)



錦手鹿児島八景図大皿

多^た櫛^ね嶋^{とう}の大隅^{おおすみ}国編入(天長元(824)年)から

1200 年

8世紀になると、南九州への律令国家の支配力は高まり、大宝2(702)年には現在の種子島、屋久島、口永良部島の範囲に多櫛嶋という行政単位が設置されました。多櫛嶋には、熊毛郡・能満郡・馭謨郡・益救郡の4郡が置かれていました。その後、天長元年に多櫛嶋は大隅国に編入され、郡の統廃合もあり、熊毛郡、馭謨郡の2郡となりました。

黎明館常設展示1階「先史・古代のかごしま」の「薩摩・大隅のくに」では、大宰府政庁跡(福岡県)や平城宮跡(奈良県)から出土した木簡^{もっかん}の複製を展示しています。その中には、平城宮跡で出土した「多櫛嶋」と書かれた木簡があります。木簡は、租税^{そぜい}などの荷札や物品の請求書、送り状など、当時の役所の公文書などに用いられました。文字資料の少ない古代の生活や多櫛嶋と都との関係をうかがい知ることのできる貴重な資料です。



原資料: 奈良文化財研究所蔵

考古

今日は何の日? そんな視点で歴史を振り返り、関連する資料をご紹介します。

立春^{はちじゅうはち}から数えて88日目にあたる、八十八夜^や

5月1日



今年の5月1日は立春から数えて88日目にあたる、八十八夜です。この頃に摘んだ新芽でつくるお茶を「新茶」あるいは「一番茶」と呼びます。お茶どころとして知られる鹿児島県では、様々な製茶道具が使われてきました。その中でも特に大きいものがチャベロです。直径は1m近くあり、竹を編んで作られ、煎った茶を乾燥させるときに使います。中央が三角にとがったフタと、円筒形のカゴに分かれています。カゴの中で炭をおこし、茶をのせたフタを被せます。三角部分が熱をまわりやすくし、チャベロを使うと茶

の香りがぬけないと言われています。かつては各家に一つずつチャベロを持ち、それぞれで製茶を行っていた地域もありました。来館者の中にもチャベロを使った思い出のある方が多く、「懐かしい!」と喜ばれる民具です。

民俗

黎明館敷地の歴史 — 明治から昭和まで —

資料調査編集員 中村 友美

鹿児島県歴史・美術センター黎明館(以下黎明館)は、令和5(2023)年に開館40周年を迎えた。開館以来、城山を背景に桜島を望むこの地に建つ黎明館だが、かつてこの場所には鹿児島城本丸、第七高等学校造士館、鹿児島大学などがあったことが知られている。今回、鹿児島城から黎明館へと移り変わった敷地の歴史を改めて整理し、年表(表1)を作成した。

島津氏の居城であった鹿児島城は、明治4(1871)年の廃藩置県後、政府によって接收され兵部省の管轄となり、政治拠点から陸軍の拠点へと転換した。しかし、陸軍の拠点としては長くは続かず、明治15(1882)年、既に「分営跡」となっていた城址に学校ができた。ここから、昭和49(1974)年に鹿児島大学医学部が移転するまで鹿児島城跡には学校が建ち、教育拠点となっていく。

最初の学校である「公立鹿児島学校」は、明治14(1881)年8月に磯の西洋館(現在の旧鹿児島紡績所(異人館))を仮教場に開校した。創設準備段階から校舎は鹿児島城跡に設置するとされており、開校翌年に学校機能を鹿児島城跡に移転するとされており、開校翌年に学校機能を鹿児島城跡に移転し、本格的な運営が開始された。この時、西洋館も移築され、昭和11(1936)年に磯へ再移転するまで、学校施設として使用された。

公立鹿児島学校は新たな学校創設のため、鹿児島市易居町にあった「県立鹿児島中学校」とともに廃校になり、公立鹿児島学校の跡に2つの学校の職員・生徒を引き継いだ「県立鹿児島中学造士館」が開校した(明治18年)。その後学校制度の改革により、県立鹿児島中学造士館は「鹿児島高等中学造士館」、「鹿児島尋常中学造士館」と、学校としての格付けとともに名称も変更されたが、高等学校設立のために廃止となり、明治34(1901)年に「第七高等学校造士館」(通称七高)が開校した。

七高は当初、中学造士館時代の宿舍等を使用していたが、その後敷地内には新たな校舎・施設が建設された。第二次世界大戦中は空襲の被害を受け校舎等を焼失、昭和20(1945)年11月に学校機能を当時の出水郡高尾野町へと移転した。校舎の中には焼け残ったものもあったが、庁舎が全焼した鹿児島地方裁判所・鹿児島区裁判所の仮庁舎として使用されたほか、敷地の一部には厚生省引揚援護局の建物が建設された。昭和22(1947)年に七高は再び鹿児島城跡へ復帰したが、敷地内には依然として七高以外の建物もあり、学校関係者以外の出入りも多かったという。

昭和24(1949)年、学制改革にもない「鹿児島大学」が発足、「鹿児島大学第七高等学校」と改称ののち、翌25年に七高は廃校となった。鹿児島大学となった鹿児島城跡には、文学部内の一般教養部、続いて医学部が置かれたが、昭和49(1974)年に鹿児島大学医学部が移転し、鹿児島城跡に建つ

学校はなくなった。しかし、昭和58(1983)年に黎明館が開館し、以来40年、博物館として幅広い年代の学びの場となっている。学校と博物館、かたちは違うが、黎明館もまた教育拠点としての役割を引き継いでいる。

現在でも敷地内の遺構や記念碑、展示場内の展示物等に鹿児島城や七高の名残をみることができる。ここまで受け継がれてきたものが、これからもこの場所の歴史を伝えていこう。

年号	年	西暦	月	出来事
慶長	6	1601	頃	鹿児島城築城開始。
慶長	20	1615	頃	鹿児島城完成。
明治	2	1869		版籍奉還後、本丸に「知政所」が置かれる。
明治	4	1871		廃藩置県後、城郭が政府によって接收され兵部省の管轄となる。本丸に「鎮西鎮台第二分営」が設置される。
明治	5	1872	6	明治天皇の巡幸の際に本丸が行在所(天皇の滞在場所)として使用される。
明治	6	1873	12	火災により本丸の大部分を焼失。
明治	10	1877	9	西南戦争で建物等が被害を受ける。戦争終結後、政府が兵營の再建に着手。
明治	10	1877	12	仮兵營完成。
明治	13	1880	9	兵營が暴風の被害を受け大破。
明治	14	1881	10	磯の西洋館(現在の旧鹿児島紡績所(異人館))を仮教場として「公立鹿児島学校」開校。
明治	15	1882		鹿児島城跡に公立鹿児島学校を移転。西洋館を同所に移築。
明治	17	1884	12	県立鹿児島中学校と公立鹿児島学校とを廃し、統合して「鹿児島県立中学造士館」を設置することが決定。翌年3月に授業開始。
明治	20	1887	12	高等中学校として格付け、「鹿児島高等中学造士館」と称することが決定。
明治	29	1896	12	尋常中学として格付け、「鹿児島尋常中学造士館」と称することが決定。
明治	34	1901	3	「第七高等学校造士館」開校。
大正	3	1914	1	桜島大噴火により校舎等被災。
大正	4	1915	3	桜島噴火による破損修復のため、本館および講堂等の改修工事竣工。
昭和	11	1936	7	本館(西洋館)が磯に再移築される。
昭和	20	1945	4	鹿児島空襲により、寮倒壊・本館地下室浸水被害を受ける。
			6	空襲によって本館・弓道場・天文観測室を残して、校舎・寄宿舎等焼失。御真影を宮之城柵野国民学校に、事務室を鹿児島市永吉に、校長室を鹿児島市坂元の竹林に移す。
			11	学校機能を出水郡高尾野町に移し、11月20日をもって学校事務を閉鎖。
昭和	22	1947	11	焼け残った校舎が鹿児島地方裁判所・鹿児島区裁判所の仮庁舎として使用される。また、敷地の一部に厚生省引揚援護局の建物が建設される。
			4	厚生省引揚援護局の建物を使用し、文・理科3年が移転。鹿児島を本校、高尾野を分校とする。
昭和	23	1948	9	全学年の本校移転が完了。
			2	特別教室2棟・普通教室4棟・図書閲覧室・書庫・消費組合室・物置・寄宿舎3棟・食堂・炊事場その他付属物を建設。
昭和	24	1949	5	「鹿児島大学」発足。
昭和	27	1952	4	鹿児島市長田町・山下町地区の火災により、校舎の大部分が焼失。
昭和	28	1953	4	鹿児島大学文学部のうち、一般教養部を鹿児島市鴨池町に移転。
昭和	32	1957	2	鹿児島大学医学部が鴨池町から山下町キャンパス(鹿児島城跡)に移転。
昭和	39	1964	7	鹿児島大学医学部移転が決定。
昭和	44	1969	6	「明治百年記念館」の建設が鹿児島城跡に決定。
昭和	49	1974	7-8	鹿児島大学医学部が鹿児島市宿町に移転。
昭和	53	1978	2	鹿児島城跡の建造物撤去開始。
昭和	56	1981	8	明治百年記念館起工式を挙げる。
昭和	58	1983	3	明治百年記念館完成。
			10	「鹿児島県歴史資料センター黎明館」開館。

表1 黎明館敷地の歴史

<参考文献>

太田秀春「鹿児島城の近代」(黎明館企画特別展「鹿児島城の城館」2020)、芳即正「鹿児島学校と三州義塾 史料と政治的背景についての考察」(鹿児島純心女子短期大学研究紀要13号、1983)、高橋信武「野村忍介自叙傳写本」(西南戦争を記録する会「西南戦争之記録 第2号」2003)、山下玄洋「鹿児島中学造士館の研究 資料の紹介と考察」1997、作道好男他編「北辰斜にさすところ 第七高等学校造士館50年史」(財界評論新社、1970)、鹿児島県『鹿児島県史第三巻』1941、鹿児島県『鹿児島県史第四巻』1943、鹿児島県『鹿児島県史第五巻』1967、鹿児島市史編纂委員会『鹿児島市史II』1970、鹿児島県史料刊行会『鹿児島県地誌 上』(『鹿児島県史料集(16)』1976)、鹿児島県史料刊行会『薩藩学事 三』(『鹿児島県史料集(41)』2002)、鹿児島大学三十年史編纂委員会『鹿児島大学三十年史』1980、鹿児島県歴史資料センター黎明館「開館10周年記念誌 黎明館」1993、丹羽謙治編「令和5年度鹿児島大学附属図書館貴重書公開 藩校造士館創立250周年記念 藩校造士館と第七高等学校造士館」2023、文部省大学学術局大学課編「全国大学一覧 昭和25年度」1951 国立国会図書館デジタルコレクション

英国海軍の重役に贈るならこれ！！ オーダーメイドの薩摩焼

飾壺の蓋に、猿を捕えた鷹の彫刻が乗っています。薩摩焼には他に類例を見ないモチーフ。なぜこんな彫刻が乗っているのでしょうか？

この作品には、ヒントとなる英語の手紙が付属しています。明治15(1882)年12月18日付で、鹿児島出身の黒岡帯刀が、英国海軍のベイリー大尉に送ったもの。文面には「威仁親王の要望により薩摩焼を贈ります」とあります。

有栖川宮幟仁(ありますがのみやたかひと)親王の第四王子威仁(たけひと)親王(1862~1913)は、明治14(1881)年1月から軍事を学ぶために英国のグリニッジ海軍大学校に留学中で、英国留学の経験をもつ黒岡はそれに随従していました。

飾壺が贈られたのは渡英して2年が経過した頃。ベイリー大尉に厚恩を受けたのでしょうか。英国海軍の重役への贈り物ですから、相応の気遣いがあったはず。

鷹は戦国武将にとりわけ好まれた画題で、一羽の鷹が岩や松にとまる姿は「英雄独立」を表し、その威光が極地まで及ぶことを意味します。また、猛禽類が獲物を捕る図は鷲鳥(しちょう)図と呼ばれ、弱肉強食を象徴する画題です。

現代ではやや違和感のあるテーマではありますが、いかにも贈る相手に相応しいモチーフが選ばれたといえるのではないのでしょうか。さらに足元には桃枝が描かれていますので、栄光が豊かに続くという意味が添えられたのでしょうか。

ここまで考え抜かれたアイデアとなれば、おそらくはオーダーメイドによる作品。当時、西欧で人気を博していた薩摩焼で唯一のものを作り贈る。鹿児島への注文には黒岡も寄与したのではないのでしょうか。

主な参考文献
 威仁親王行実編纂会『威仁親王行実』上、威仁親王行実編纂会、1926
 海深昇「黒岡帯刀の英国留学について」『英学史研究』4、1971
 金井紫雲編『東洋画題綜覧』(復刻版)、国書刊行会、1997



英語の手紙



鷹の足元に描かれた桃



主任学芸専門員
 深港恭子(美術・工芸担当)

黎明館のフカボリ 12

敷地散策のススメ

七高生久遠の像

制作者 西村祐一
 松枝秀晴
 中村茂幸
 協力 西川口美術研究所
 所長 永松操
 鑄造 岡宮美術鑄造株式会社

学帽・マント・下駄の
 バンカラストイルが特徴。

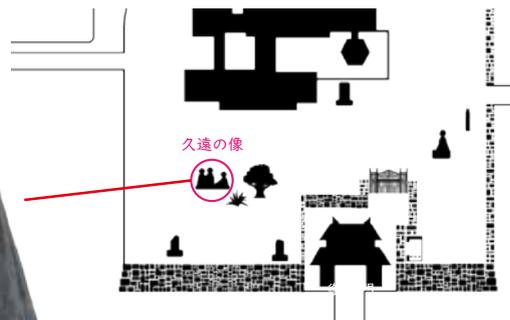
像はそれぞれ、「知・情・意」を象徴する七高生の姿をあらわすとされています。



この像は、第七高等学校造士館開校85周年を記念して、七高同窓会によって昭和60(1985)年10月に建立されました。

第七高等学校造士館は、明治34(1901)年~昭和25(1950)年まで、現在の黎明館の敷地にあった学校です。

「第七高等学校造士館開校九十五年記念誌」によると、像を3人にするか、七高にあやかり7人にするかという議論の末、7人では煩雑だということで3人の像になったそうです。



久遠の像は、黎明館の東側(御楼門側)の敷地にあります。

会期：令和6年9月26日(木)～11月4日(月)

会場：黎明館2階 第2特別展示室

慶応4(明治元(1868))年、260年余り続いた江戸幕府が倒れ、新しい政府が産声を上げました。しかし、欧米列強が虎視眈々と狙うなか、ヨチヨチしている時間はありません。日本は、「殖産興業」・「富国強兵」を掲げ、強力な国づくりを急ぎました。

松方正義(1835-1924)は、その頃長く大蔵卿・大蔵大臣として国家の屋台骨を支えた人物で、総理大臣も2度務めました。その没後100年を記念し、西郷・大久保亡き後、薩摩閥の中心を担った松方の生涯に迫ります。



上野彦馬撮影松方正義写真(個人蔵・黎明館保管)

NEXT Exhibition

令和6年度 企画展

南九州の山と生きる人々

民俗

会期：令和6年9月10日(火)～12月1日(日)

会場：黎明館3階 企画展示室

背丈ほどの大きな鋸を持って、山に向かう木挽夫たち。身を潜めて、獲物が出るのをじっと待つ狩猟者たち。南九州の人々は、山の豊かな恵みを求め、知恵や工夫を凝らしながら自然と付き合ってきました。山での生業に使われた民具、山の神への畏敬と感謝を表す行事や信仰など、山と人々が育んできたつながりを紹介します。



ワキノコ

展示室貸会場イベントスケジュール(5月～7月)

黎明館開館時間(9:00～18:00)

期間	時間	イベント	会場	観覧料	主催者お問い合わせ先(敬称略)	備考
5/18(土)～5/26(日)	9:30～18:00 (入場は17:30まで)	第70回記念 県美展	第1 第2 第3	有料	鹿児島県美術協会 099(223)0758	初日9:30開場 最終日16:00閉場
6/4(火)～6/9(日)	9:30～18:00 (入場は17:30まで)	第73回 南日本書道展	第1 第2 第3	有料	南日本新聞社事業部 099(813)5053	初日9:30開場 最終日18:00閉場
6/14(金)～6/16(日)	9:00～18:00 (入場時間制限なし)	第51回 鹿児島県学生書道連盟展	第3	無料	鹿児島県学生書道連盟 090(8164)5544	初日9:00開場 最終日16:00閉場
6/21(金)～6/23(日)	9:00～18:00 (入場は17:30まで)	ユーフォニウム誕生180年記念 古今東西のユーフォニウム展	第3	有料	ユーフォニウム誕生180年 記念事業実行委員会 080(5042)4780	初日9:00開場 最終日18:00閉場
6/27(木)～6/30(日)	9:00～18:00 (入場時間制限なし)	第62回 南日本七ヶ書道展	第2 第3	無料	南日本書道会 099(223)5226	初日9:00開場 最終日15:00閉場
7/13(土)～8/25(日)	9:00～18:00 (入場は17:30まで)	THE仮面ライダー展	第2 第3	有料	KKK鹿児島放送 050(3816)5111	初日9:00開場 最終日18:00閉場
7/19(金)～9/1(日)	9:00～18:00 (入場は17:30まで)	イマーシブ体感「動き出す浮世絵展」	第1	有料	MBC南日本放送事業部 099(254)7112	初日10:00開場 最終日18:00閉場

編集
後記

令和6年は「生誕〇年」「〇年記念」が多い年です。

黎明館では、記念の年を迎えた鹿児島にゆかりのある人物にスポットを当て、特集展示を行いたいと思っています。(田平)

編集・デザイン 田平晶子 中村友美

Information

※ 展示や催し物等の予定は変更になる場合がありますので、ホームページまたはSNS(Facebook・X・Instagram)にてご確認ください。



開館時間 9:00～18:00(入館は17:30まで)

休館日 月曜日(祝日の場合は翌平日)、毎月25日(土・日・祝日の場合は開館)、12月31日～1月2日、そのほか館が定める日

観覧料 一般420円 高・大学生260円 小・中学生160円

〈年間パスポート〉
一般840円 高・大学生520円 小・中学生320円

※障害者手帳の提示で無料 ※団体(20名以上)割引あり。 ※鹿児島県内に居住する70歳以上無料(令和6年度まで) ※鹿児島県内に居住する18歳以下は、土日祝日は無料(令和6年度まで)

アクセス 鹿児島空港から鹿児島市内行きバス「市役所前」下車、徒歩7分
JR「鹿児島駅」から徒歩15分
JR「鹿児島中央駅」から市電・バス利用
市電・バス「市役所前」または「水族館口」下車、徒歩7分
鹿児島市内巡回観光バス「薩摩義士碑前」下車すぐ
無料駐車場あり(普通車125台 バス20台)

自転車・バイク・自転車でお越しの方は、②西門をご利用ください。
②西門および①北門は、歩行者のみ通行可能です。(車椅子での通行はできません)
車椅子で来場される方には、駐車場まで車でお送りいただくことをお断りしております。
南門(西門)不可利用 黎明館開館日の7:00～18:30(休館日は通り抜けできません)

鹿児島県歴史・美術センター 黎明館

〒892-0853 鹿児島市城山町7番2号
☎099-222-5100 FAX.099-222-5143

Follow us!

ホームページ、SNSで黎明館情報を発信しています。フォローして、ぜひチェックしてみてください。

QRコード: Homepage

Facebook: @reimeikan

X: @official_reimei

Instagram: @official_reimei